

流水実験

○目的 流水実験を通して、流れる水の速さや量によるはたらきの違いを調べ、流れる水のはたらきと土地の変化の関係についての考えをもつ。

○対象学年 5年生（3学期は水道が凍る可能性があり、不可）

○持ち物 ワークシート（学校で準備したものでよい。ノートも可）、筆記用具、探検バッグ

○展開例（目安は45分～60分）

1 学習課題の確認をする

<流れる水には、どんなはたらきがあるのだろうか>

留意点

- 個々の課題を確認させる
- 実験の流れを説明する。（3回水を流すこと）
- カーブ（内側・外側）の棒に着目させる。

2 1回目流水（バケツ1杯）

留意点

- 水を流す前と流した後で、どのような変化があるか確認させる。（土がけずれる、川幅の変化など）

3 2回目流水（バケツ2杯）

留意点

- 水の量が増すとどのように変わるか注目させる。
- おがくずを流して水の流れ方に注目させる。

4 3回目流水（バケツ3杯）

流水実験場の中に入り、流れる水の速さを肌で確かめることも可能です。

5 学習のまとめをする

- しん食、運搬、堆積の3つの用語をおさえる



学校でしっかりとふり返りができるように
してください！

